

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月20日現在

機関番号：17401
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22720028
 研究課題名（和文）ドイツにおける赤ちゃんポスト及び匿名出産制度に対するキリスト教の立場に関する研究
 研究課題名（英文）Christian positions on baby hatches and anonymous birth in Germany

 研究代表者
 Tobias BAUER（トビアス バウアー）
 熊本大学・文学部・准教授
 研究者番号：30398185

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトにおいて、ドイツにおける赤ちゃんポスト及び匿名出産制度に対するキリスト教の立場を分析し、本テーマに最も重要なテキストであるドイツ倫理審議会の見解『匿名による子供の委託の問題』（2009年）の抄訳を作成した。それを踏まえて、現下の議論におけるキリスト教諸教会と同福祉事業団の立場を確認した。それに加え、キリスト教系福祉団体の取り組みを含めたドイツにおける赤ちゃんポストを巡る議論を倫理学の見地から考察し、その論拠を纏めて再整理を行った。

研究成果の概要（英文）：(1) Analysis and abridged translation of the German Ethics Council's opinion on anonymous relinquishment of infants (2009) including the "Dissenting Position Statement" by members of the Christian churches. (2) Analysis of the positions of the Christian churches in the contemporary discussion of baby hatches and anonymous birth in Germany. (3) Reinterpretation of contemporary discussion (including Christian arguments) from the standpoint of the "statistical-lives" concept.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：医療倫理・キリスト教・宗教学・宗教と医療・ドイツ・生命倫理・赤ちゃんポスト・匿名出産

1. 研究開始当初の背景

2007年に、熊本のカトリック系病院である慈恵病院において、日本初の「赤ちゃんポスト」が設置・運営されて以来、日本における「赤

ちゃんポスト」について激しい議論が続いている。マスメディアに取り上げられ、世論でも注目され賛否両論の意見がぶつかり合う中で、現時点に至っても今尚その論争は終結していない状況である。「赤ちゃんポスト」

の取り組みについて先行しているドイツの現状がメディアにおいて度々紹介されており、熊本の慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」と称される制度も、実際にドイツの「赤ちゃんポスト」制度を範例にしたものである。日本における「赤ちゃんポスト」問題は、倫理的、法的、社会的等の様々な方面から議論されており、その比較対象として、ドイツの現状も法学及び社会福祉学の視点からすでに考察されつつある。

ドイツにおける「赤ちゃんポスト」の運営組織は、キリスト教諸教会及びキリスト教系福祉団体が多数を占めており、「赤ちゃんポスト」を巡る議論においても、神学側からの意見や諸教会の見解などが重要な役割を果たしている。また、ドイツ及びヨーロッパには「赤ちゃんポスト」の背景である嬰兒殺しと捨て子問題へのキリスト教の取り込み（ヨーロッパ初の「赤ちゃんポスト」の設置は12世紀に遡り、ローマの教会により設置された）に長い歴史があり、その経験は、ドイツ、そして日本における議論に重要な働きをなし得ると思われるにも関わらず、まだ体系的な研究がなされていないのである。そこから、ドイツ国内外においてまだ十分に研究されていないと思われる次の問題点が浮かび上がる。

- (1) 「赤ちゃんポスト」の文化史の中で、キリスト教及び同教会はどのような役割を果たしているのか。
- (2) キリスト教の教義から「赤ちゃんポスト」に対していかなる立場が生じるのか。ドイツの「赤ちゃんポスト」論議におけるキリスト教の貢献はどこにあるのか、すなわちキリスト教はドイツにおける「赤ちゃんポスト」論議および立法の過程にいかなる論拠を提供しているのか。そもそも数あるキリスト教諸教会及び神学者の中の一つのキリスト教的立場に基づいて議論することは適当なのか、すなわち統一的なキリスト教的立場がドイツに存在しているかどうか。
- (3) そのキリスト教的立場から、福祉現場においていかなる実践が生じるのか。キリスト教諸教会及びキリスト教系福祉団体が嬰兒殺しと捨て子問題に直面し、関連するキリスト教教義から生じる「赤ちゃんポスト」や「匿名出産制度」（妊産婦が分娩の際に匿名で入院し、生まれた赤ちゃんをそのまま養子縁組に繋げる制度）等の具体的な取り組みの在り方は

どのようなものなのか。

2. 研究の目的

- (1) 「赤ちゃんポストとキリスト教」の文化史に関する宗教史学的研究：ドイツを中心に、ヨーロッパにおけるキリスト教諸教会と神学者、キリスト教系福祉団体の嬰兒殺しと捨て子問題への取り込みを、中世から現在まで追っていく。具体的には、ラテン語とドイツ語の一次資料を中心に、ドイツの既存の研究成果を参考にしながら、キリスト教に強い影響を受けているドイツの「赤ちゃんポスト」の歴史と伝統を明らかにしていく。さらに、時代順に、特定な社会的・歴史的背景から生じる、「赤ちゃんポスト」を正当化する論拠の仕方や運営上生じた問題点などを検討していく。
- (2) ドイツの「赤ちゃんポスト」・「匿名出産制度」問題に対するキリスト教の立場の分析：ドイツにおけるキリスト教の生命倫理に関する最も基本的なコンセンサスを表す共同見解『神はいのちの友』（1989年）を基盤に、現在ドイツで議論されている当問題に関して公にされている見解にみられる論拠を分析し、諸教会及び本問題に取り組む神学者のコンセンサスのあり方や、異なる立場とその教義上の理由を明らかにしていく。また、キリスト教側によって挙げられている論拠を体系的に整理し、その分析を行う。最も基本的と思われる見解・声明に関してはその和訳を作成し、分析も行う。さらに、従来の日独の研究結果を踏まえながら、キリスト教側が「赤ちゃんポスト」論議に持ち込んだ論拠に対する一般社会の反応もメディア調査などによって明確にしていく。
- (3) ドイツのキリスト教諸教会及びキリスト教系福祉団体が運営する「赤ちゃんポスト」・「匿名出産制度」の特徴についての調査：(2)において得られる、「赤ちゃんポスト」・「匿名出産制度」を正当化し支持するキリスト教的論拠から、いかなる福祉の実践が生じるのかを現地調査等を通して明らかにする。それに加えて、その他の嬰兒殺しと捨て子問題に対するキリスト教的政策との位置づけ、教会内外からの批判に対する対応などを明確にしていく。

3. 研究の方法

(1) 平成 22 年度

① 本研究プロジェクトの初年度の取り組みとして、まず本研究テーマの国内外の研究水準及び文献に関する徹底的かつ体系的な調査を行った。それに続いて、主な一次資料（キリスト教諸教会及び同福祉事業団の赤ちゃんポスト・匿名出産制度に対する声明・見解等）及び日本語・西欧語の二次文献を手に入れることができた。

② ①で入手した諸資料を検討した結果を踏まえて、中世から現在に至るドイツ・ヨーロッパにおけるキリスト教諸教会、神学者、キリスト教系福祉団体等の嬰兒殺しと捨て子問題への取り組みを文化史的視点から確認した。

③ 1999年以降ドイツに（再）登場してきた赤ちゃんポスト及び匿名出産に関して、現下の議論にみられるキリスト教諸教会と同福祉事業団の立場についても調査した。具体的には、ドイツのキリスト教諸教会及び赤ちゃんポスト等を運営するキリスト教系の福祉団体が、ドイツ倫理審議会が2009年11月に公にした赤ちゃんポスト及び匿名出産に関する見解に対して如何なる立場を採っているかを検証した。

(2) 平成 23 年度

平成 22 年度の研究において、ドイツの「赤ちゃんポスト」「匿名出産」問題に対するキリスト教の立場に関しては、出版されていない資料、つまり、日本で入手できない文献が多数あり、それを手に入れる必要性が生じた。そこで、本研究テーマをより深く把握するために不可欠な作業として、以下において、現地調査、資料収集、インタビュー、情報交換等を行った：SKF福祉事業団アンベルク支部（アンベルク）、Donum Vitae福祉事業団アンベルク支部（アンベルク）、ドイツ倫理評議会（ベルリン）、シュテルニ・パーク福祉団体（ハンブルク）、Donum Vitae福祉事業団連邦中央事務局（ボン）、DRZE研究センター（ボン）、SKF福祉事業団連邦中央事務局（ドルトムント）。これらの機関において、本研究プロジェクトのテーマに関する貴重な文献・資料を大量に収集できた。また、各担当者や研究者から、本研究プロジェクトに関する有益

な助言も頂いた。

(3) 平成 24 年度

赤ちゃんポストや匿名出産制度を提供しているキリスト教系福祉団体の立場及びその立場の元となる神学的（教義上の）・倫理的な裏づけの仕方等に関して、第2回現地調査を実施し、以下にて、現地調査、資料収集、インタビュー、情報交換等を行った。カトリック・アカデミー・ベルリン（ベルリン）、フンボルト大学（ベルリン）、DRZE研究センター（ボン）、Donum Vitae福祉事業団の連邦中央事務局（ボン）、SKF福祉事業団の連邦中央事務局（ドルトムント）等。

4. 研究成果

本研究の進行に伴い、新たに発見した問題点やさらに視野に入れるべき要素が浮上し、研究開始当初に計画した研究目的および方法に若干の変更が生じた。それにより、具体的には、下記の成果を挙げる事ができた。

- (1) ドイツ倫理審議会の見解『匿名による子供の委託の問題』（2009年公開）は、赤ちゃんポスト及び匿名出産という事業のもつ倫理的・法的問題を指摘し、これを厳しく批判し、かつその廃止を要求するものである。しかし少数意見としてではあるが、その巻末には、それが法的・倫理的問題を内包することを認識しながらも、なおかつこの事業の存続の必要性を訴えるキリスト教諸教会の代表者の声も添えられていた。そこで、それらの分析によって、現下の議論におけるキリスト教諸教会と同福祉事業団の立場を明らかにしようと研究を進め、その結果を雑誌論文として発表した。
- (2) 本研究テーマの主要な一次資料である、ドイツ倫理審議会の赤ちゃんポストおよび匿名出産に関する見解『匿名による子供の委託の問題』（2009年公開）の抄訳を作成した上で、その分析を行った。今回取り扱った箇所は、本見解の中核をなしている、赤ちゃんポストおよび匿名出産の容認・廃止それぞれの立場に立って異なる論証を繰り返していき第8章「倫理的評価」、および、赤ちゃんポストおよび匿名出産の廃止を要求する、委員の多数によって出された「勧告」と、法的・倫理的問題を内包することを認識しながら

らも、なおかつこの事業を持続させる必要性を訴える「少数意見」である。

- (3) 赤ちゃんポスト等が法的・倫理的問題を内包することを認識しながらも、なおかつそれを持続させる必要性を訴え、それを提供しているキリスト教系福祉団体が多くみられることから、その立場の元となる神学的（教義上の）・倫理的な裏づけの分析を行った。また、赤ちゃんポスト及び匿名出産制度を提供するキリスト教系福祉団体のメディアによる報道や世論の受け止め方、並びに、ドイツ倫理審議会の赤ちゃんポスト等の廃止を要求する見解（2009年）と、同じくその廃止要求を支持する連邦家庭省の鑑定書（2011年）の受け止め方も、その組織内外の議論の分析を通して確認した。
- (4) 上記の(3)を踏まえて、キリスト教系福祉団体の取り組みを含めたドイツにおける赤ちゃんポストを巡る議論を倫理学の見地から考察し、その論拠を纏めて再整理を試み、雑誌論文として発表した。
- (5) 熊本市「このとりのゆりかご専門部会」からの依頼に応じてドイツにおける赤ちゃんポスト問題の現状と展望についての最新情報を口頭発表の形で提供した。
- (6) 本研究プロジェクトの成果が日本における議論にも十分貢献し得るという確信のもとに、今回の研究成果をさらに展開させ、日本における「このとりのゆりかご」を巡る議論と結び付け、より有意義な日独比較研究ができるように、関連分野の研究者との連携を強化し、今後の共同研究体制の準備を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Tobias Bauer、Angebote anonymer Kindesabgabe aus der Perspektive des Konzepts "statistischer Leben": Versuch einer Strukturierung der gegenwaertigen Debatte im Anschluss an die Stellungnahme des Deutschen Ethikrates 2009、文学部論叢、査読無、104号、2013、61-80
- ② トビアス・バウアー訳、赤ちゃんポスト及び匿名出産に関するドイツ倫理審議会の見解（2009年）、文学部論叢、査読無、103号、2012、117-132
- ③ Tobias Bauer、Christliche Kirchen und Organisationen in der aktuellen Diskussion um Babyklappe und anonyme Geburt in Deutschland、熊本

大学社会文化研究、査読有、9号、2011、39-55

〔学会発表〕（計1件）

- ① トビアス・バウアー、ドイツにおける赤ちゃんポスト — その現状と展望、第29回熊本市要保護児童対策地域協議会このとりのゆりかご専門部会、2013.1.28、熊本市総合保健福祉センター（熊本）

〔その他〕

「独の〈ゆりかご〉廃止へ — 熊本大・バウアー准教授に聞く」、熊本日日新聞、2012.11.10、23

6. 研究組織

(1)研究代表者

Tobias BAUER（トビアス バウアー）

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：30398185